

校長室だより

日本福祉大学附属高校 2015年12月1日

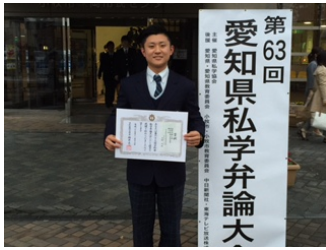
万人の福祉のために
真実と慈愛と献身を



福祉大学附属推薦入試の合格発表がありました

先月中旬、福祉大学附属推薦入試結果が発表されました。6学部の計52名とA0合格4名の計56名の合格者が発表されました。職員室前の掲示板には生徒諸君の人だかりが。無事自分の名前を見つけて、歓声を上げる人、静かに喜びをかみしめる人、先生と握手する人など様々な喜びの光景が見られました。合格おめでとう。

2つの快挙・・・その1. 私学弁論大会に2位入賞



第63回私学弁論大会に出場した大脇元君(3年)は「“てほへ”の歌を響かせて」と題して弁論。出場28名中2位に入賞しました。(11/19中日掲載)「♪て～ほへ てほへ～」の花祭りのかけ声から始まった大脇君の弁論。人口減少、高齢化の一途をたどる出身地、東栄町の厳しい現状を紹介しながらも、満月には月明かりで生活ができる自然の美しさや、地域の人々のつながりを教えてくれた花祭りのすばらしさに触れ、卒業後は故郷に帰って祭りの存続と町の発展に尽くしたいと、力強く締めくくりました。聴衆の一人である私も大変感動しました。おめでとう。

その2. 高校生福祉文化賞エッセイコンテスト優秀賞

水野李都君(1年)は、第13回高校生福祉文化賞エッセイコンテストの第2分野「わたしが暮らすまち」で、優秀賞を受賞しました。このコンテストは、日本福祉大学と朝日新聞社が主催するもので、今年是全国の高校から9947点と歴代1位の多さでした。水野君は「雨のスクラム」という題で、地域の人々が、大雨の時には被害を少なくするために、土のうを準備したり、片付けをする様子を書きました。表彰式のスピーチでは「自然災害をなくすことはむずかしいけれども、人々が力を合わせれば最小限に食い止めることができるのでは」と、協力することの大切さを語ってくれました。おめでとう。(作品は冊子または福祉大学のHPをご覧ください)



和太鼓部県大会優秀賞、来夏の全国大会出場に王手



知立市文化会館において総合文化祭郷土芸能部門の県大会が開催されました。来年夏の全国大会(広島県)の予選ともなるものです。優秀校3校の中から上位2校が推薦されますが、出場校16校の中、和太鼓部は優秀校に選ばれました。審査員からは「それぞれが演奏の中で、物語の中に生きているのを感じる演奏でした。全体を通して物語や人物の心の動きが見えました」という評価をいただきました。健闘をたたえます。尚、全国大会出場は12月上旬に決定します。

介護職員初任者研修、全員修了証を手に

5月下旬から始まった介護職員初任者研修は、33名の生徒諸君が受講し、土曜日や夏休みを充てて講義や実習に汗を流してきましたが、10月下旬に試験を行い見事全員が合格し、先月修了式が行われました。修了式では、全員がまとめの記録集を読みながら、学んだことを発表しました。その後一人一人に修了証明証が授与され、ベタニアホーム理事長の市野先生からお祝いの言葉をいただきました。ぜひ今後学んだことを生かしてもらいたいものです。おめでとう。(裏面に私からのお祝いの言葉を載せておきました)



(介護職員初任者研修修了の皆さんへ)

「だれかのために」を胸に刻んで

校長 岩本憲之

皆さんに質問ですが、皆さんが人生で喜びを感じたり、もっと頑張ろうと思うのはどんな時だと思いますか。そんなこと考えたこともないという人もいるかもしれませんが、ちょっと今までの自分を振り返ってください。

私は、自分がだれかの役に立ったと感じたときに、喜びを感じたり、もっと頑張ろうと思うのではないかと思います。それこそ本校が大事にしている「だれかのために」の心なのです。

今年の秋、ノーベル医学・生理学賞を受賞された北里大学の北村先生は、そのよい例です。先生は定時制高校の教員をされていた時に、一日仕事を終え、疲れた体で学校にやってくる生徒たちを見て、自分をもっともっと勉強しないといけないと思われました。その後、研究者の道に進まれ、感染症を予防するものになる微生物を発見され、世界の10億人もの人々の命を救う薬を開発されました。先生は、「何か役に立つことはないかと絶えず考え、人の役に立つことをやりたいと思っていた」と当時のことを語られています。そして、「めちゃくちゃ本を読んだ」とも。自分の力が人のために役に立つと感じたからこそ、多くの失敗にもかかわらずあきらめず努力し、素晴らしい発見につながったのではないのでしょうか。

本校の介護職員初任者研修は、普通科としては大変珍しいとりくみですが、毎年定員枠を超える多くの生徒諸君が手を挙げてくれています。応募した生徒は「祖父母が要介護状態であり、ヘルパーさんの仕事を見て、私も資格を取得し、お年寄りの面倒を見てあげたいと思った」とか、「大好きだった祖母が亡くなってしまっ以来、私は少しでも祖母の面倒を見てあげたかったと思っています。だからこの研修を受けて、人の役に立てるようになりたいと思っています」と動機を語っています。本校が願っている、「だれかの役に立つ」という思いのあふれた生徒諸君がとても多いことに、私は、嬉しさと心強さの両方をひしひしと感じます。

約半年間、土曜日や夏休みも費やして皆さんは本当によく頑張ったことと思います。その努力と献身に惜しみない拍手を送ります。その分、皆さんは介護の知識とともにいっそう心の豊かな人間に成長できたのではないかと確信します。

介護初任者研修を修了した皆さんには、今後専門的な知識や技術を生かし、介護が必要な方々の役に立てることを期待しています。すぐにはそういう仕事につかない人もいるかもしれませんが、この研修で学んだことはこれからの皆さんの人生に必ず役に立つものと確信します。

末尾となりましたが、毎年この研修のために、講義や実習や様々なお世話をいただきました市野先生始め、ベタニアホームの諸先生方に心からお礼を申し上げます。先生方のご尽力のおかげで、生徒諸君は無事に全員が修了証を手にすることができました。大変ありがとうございました。